

平成29年 丹波市10大ニュース

	タイトル及び説明
1	「丹波市健康センター ミルネ」 および県立新病院建設工事着工 市が開設する「丹波市健康センター ミルネ」の起工式が本年5月10日に行われ、建設工事が始まった。竣工(工事完成)は平成31年3月の予定。 施設は鉄骨3階建てで、1階に診療所、健診センター、2階に健康増進、疾病予防、訪問看護、3階に子ども発達支援、地域包括支援の機能を備えた施設となる。 また、隣接して建設される県立丹波医療センター(仮称)も併せて工事が始まった。両施設の一体的な運営を図り、急性期から在宅療養支援を含む医療・保健・福祉・介護の分野まで切れ目のないサービスを提供する施設として、平成31年度上半期内の開設を目指す。
2	青垣小学校スタート ～青垣地域4小学校が統合して青垣小学校開校～ 本年4月6日、それぞれ140数年の歴史を重ねてきた芦田小学校、佐治小学校、神楽小学校、遠阪小学校が統合し、児童数279人で青垣小学校が開校した。 開校式では、教育長より新校章旗が学校長と児童代表に手渡され、関係者が出席のもと新小学校の出発を祝った。 また、開校にあわせ地域とともにある学校づくりを進める、青垣小中学校コミュニティ・スクールがスタートした。小中学校の教育目標「ふるさと青垣を愛し 自ら学びたくましく生きる児童生徒の育成」のもと、未来に向かう子どもたちの育成をめざしている。
3	恐竜化石を活用した自治体連携(につぼん恐竜協議会) 本年11月26日、恐竜化石産出自治体の北海道むかわ町、熊本県御船町、篠山市、丹波市の4市町の首長が丹波市に参集し、恐竜化石を活用した自治体連携協定を締結した。 包括的な連携のもと、人的・知的財産や特色ある資源の活用を図り、地域づくり、教育・文化の振興、学術・研究、観光、地域交流、災害応援など多様な分野で相互に協力し、活力ある地域の形成および発展に寄与することを目的に、自治体連携の名称を「につぼん恐竜協議会」として発足した。 第一弾として、学術・研究の分野の連携交流で「丹波竜フェスタ2017」で講演会を開催し、研究員、学芸員を講師に迎えて各市町の恐竜について発表を行った。 また、連携各地域の紹介コーナー、物産販売コーナー、恐竜化石の特別展示を行った。
4	予防接種ネットワーク運用開始 本年4月から、従来の接種券方式を予防接種カード方式に変更し、市と医療機関を専用ネットワークでつなぎ予防接種歴を共有するシステムの運用を開始した。 医療機関では、対象者の予防接種カードを専用タブレットに読み込ませることで、接種前に実施可能なワクチンを判定できる。保護者には専用サイトから次回接種可能時期をメール送信するなど、複雑な予防接種スケジュールを分かりやすく通知する仕組みを構築した。 現在、専用サイトの登録率は、乳幼児0歳児においては93%を超え、順調に運用している。
5	武庫川女子大学との包括連携協定書の締結 本年10月10日、武庫川女子大学および武庫川女子大学短期大学部と「包括連携協力に関する協定書」を締結した。目的は、包括的な連携のもと、社会的資源の活用および人的資源の交流を図り、地域社会の持続的な発展および教育研究の向上に資すること。 大学では、丹波市という新たなフィールドにおける実践教育、自然や資源を利用した教育研究等、市と歩調を合わせた地域活性化の取り組みを行う。市では、農村部の特性を生かし、人・自然・産業等の研究実践フィールドを提供し、地域の課題解決に向けた取り組みをお互いに連携して進めていく。

平成29年 丹波市10大ニュース

	タイトル及び説明
6	住民票など証明書のコンビニ交付を開始 市民サービス向上のため、本年11月1日から全国のコンビニエンスストアで住民票の写しなどの証明書を交付するサービスを開始した。 コンビニで交付する証明書は、住民票の写し、住民票記載事項証明書、印鑑証明書、現年度の所得課税・非課税証明書。 年末年始（12月29日～1月3日）を除き、午前6時半～午後11時まで証明書の発行が可能になった。コンビニに設置してあるキヨスク端末を自ら操作し、約3分程度で必要書類が取得できる。ただし、利用にはマイナンバーカード（個人番号カード）が必要である。
7	丹波市創生シティプロモーション全国公募パートナーシップ事業 人口減少を迎える中、丹波市の強みを活かした知名度向上と地域の持続可能な産業、社会構造を構築するため、「丹波市創生シティプロモーション推進方針」を策定し、シティプロモーション事業に取り組むこととした。 先導的事業として、民間事業者の知見・企画力・実行力を活かし、本市の魅力を国内外に発信し、地域経済を活性化させるため、市と協働して事業を行うパートナー事業者を全国から募集した。本年11月22日、NPO法人 SEEDS Asia（シーズ アジア）と第1号の協定を行った。
8	丹波市豪雨災害復旧記念式典を開催 本年6月3日、丹波市豪雨災害の復旧事業がほぼ完了したことを記念し、丹波市豪雨災害復旧記念式典を開催した。被災者の復旧への思い、関係者の協力、国等の支援が一体となった迅速な復旧を祝った。 来賓、市民等約500人が出席し、「創造的復興」への思いを新たにした。
9	まごころ市長室・タウンミーティングの開催 市長就任後直ちに、市長が市民の方と直接面会し懇談する機会を設け「まごころ市長室」を開始した。市政に興味・関心を持っていただき、親しみやすい市政をめざすことを目的として開催した。 また、市民が主体となるまちづくりを推進していくため「市長と語ろう！タウンミーティング」をテーマ別に実施した。広く市民のニーズを把握し、市民の意見を市政に反映させることを目的として開催した。
10	篠山市清掃センター運営に係る運営負担見直しの確認書に調印 本年3月7日、山南地域のごみを処理している篠山市清掃センターの運営について、負担見直しの確認書に調印した。長年にわたり丹波市の負担を軽減するよう篠山市に見直しを求めており、両市長協議の結果、これまでの負担率（均等割20%、人口割20%、ごみ搬入量割60%）を見直し、人口割を廃止、均等割20%、ごみ搬入量割80%とすることを確認した。 これにより、本年度の負担額は約800万円の負担軽減となる見込みである。